## LOCAL

 JR 東 労組 横 手 運 輸 区 分 会 情 報 発 行 番 号 6
 号

 2 0 1 8 年 1 2 月 5 日 発 行 責 任 者 小 田 嶋 寛

## 第24回運転士分科会 定期総会開催

11月27日、イヤタカにて第24回運転士分科会定期総会が開催され、横手運輸区分会からは菅原、小林、佐藤の3名が出席しました。

冒頭、池田会長の挨拶では盛幹での見せしめ的日勤教育や強制転勤について、長野地本運転士 分科会への檄の取り組み、年末手当について、今年度の活動報告について、最後に鉄道業は経験 工学であり瞬時に判断する為には経験が必要であり、また先輩の声を聞き学ぶ必要があると述べ ていました。盛幹の件を受けて本部の工藤副会長より、原因不明の事象は全て乗務員のせいにす る傾向がある。改めて原因究明の重要さとそこからでしか安全はつくりだせないこと、今後もた たかっていくことが話されました。

本年度の取り組みで紹介された地本政策フォーラムでの部会発表、「ワンマン運転での一考察」では分会でもアンケートに協力し、今後増加するであろうワンマン運転の負担軽減と車内におけるお客様へのサービス向上へ向けた提言がされました。横の繋がりをもって業務の課題、「安全・健康・ゆとり・働きがい」ある働きやすい職場環境を作り出していく為に、横手運輸区分会からは佐々木雄太が次期体制で常任委員として奮闘することを決意しました。

各運輸区分会からは組織の現状や再加入の取り組み、秋田からは実際に脱退を思いとどまらせた具体的事例もあげられ、利益誘導や脱退慫慂に負けない組合員同士の繋がりの強さ、対話することの重要性が話されました。また職場問題、業務課題への取り組みが表に見えないとの声があった為、多くの情報を持っている一般組合員も巻き込んだ運動が重要であるとの発言もありました。横手運輸区分会からは組織の課題と冬期運用より B4 行路に追加された「852M の連結箇所確認」について、組員から出た疑問や懸念について発言をしました。

昭和採2名からの力強い発言もあり、業務だけではなく組織としてもまだまだ先輩から学び取っていかなければならないと感じました。

最後に工藤事務長より総括答弁があり、職場に表れる業務課題をいかに迅速に掴んで取り組むか、表に出ない声を吸い上げ改善に取り組んでいくことを述べて、会長の団結ガンバローで閉会しました。懇親会では横手運輸区出身の分科会員同士で大輪の笑いの花を咲かせて盛り上がりました。

命と安全を価値基軸に原因究明、検証運動から 「安全・健康・ゆとり働きがい」のある職場を創り出そう!